

27年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 12月20日～ 27年1月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は18社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
入荷動向	スギ	△ 9.1	0.0	18.2
	ヒノキ	△ 27.8	△ 22.2	27.8
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
消費動向	スギ	△ 4.5	4.5	13.6
	ヒノキ	0.0	△ 5.6	11.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
在庫動向	スギ	11.1	11.1	5.6
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	5.6
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	50.0	25.0

・スギの原木入荷は1月の減少が、2月は横ばい、3月は増加に。ヒノキは1月、2月は減少し、3月に増加へ、カラマツ、トドマツは1月横ばいの後、2月、3月は増加に。

・スギの原木消費は1月の減少から、2月、3月は増加へ、ヒノキは1月横ばい、2月は減少、3月は増加へ、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは1月の減少、2月横ばい、3月は増加へ

・スギ及びトドマツの原木在庫は3ヵ月連続して増加、ヒノキは1月、2月は減少し、3月は微増。カラマツは1月の横ばいから2月、3月は増

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/1月	2月	3月
スギ	4.2	4.2	4.2
ヒノキ	0.0	0.0	△ 12.5
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は3ヵ月連続して総じて保合、ヒノキは1月、2月の横ばいが3月はやや弱保合、カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・トドマツの入荷は、天候に左右されるがここまでは順調。受注変わらず堅調、冬季のため凍結丸太で消費減る。

・カラマツは、例年の造材を見込んでいるが車両不足で運材が追いつかない。トドマツは使用量が少ない事で入荷制限していたがシステム材の入荷が始まり在庫は増加。木質バイマス向け集荷は始まったが、施業・輸送インフラを強化しないと単なる用途転換で、出材の増加は見込めない。消費では、カラマツは梱包・パレット向けは当月も順調な需要で推移、ラミナ向けは適木不足で100%対応に至らない。トドマツは羽柄材関連の出荷が低調のまま、原木在庫の増加と品傷みを懸念する。

・スギ・ヒノキは冬を向かえ入荷が滞る見込み。原木在庫が少なく、消費動向は入荷動向と同じ。

・ヒノキ原木入荷・生産・在庫、全てに大きな変動ない。

・入荷は消費分増えている。消費は設備の増設でやや増加。在庫は売れ行き少し悪くやや増加。

・入荷は雪のため全体に少ない。

・雪で出材遅れる、製材数量は変えず、ヒノキ注文があり消費増、在庫総量は変えず。

・ヒノキは雪の影響で入荷減、消費は1月～2月は昨年の後半ぐらで3月からは増やす計画。在庫は天候により相場を見ながら決める。

・手持ち在庫が減少し過ぎたため入荷を増やす。12月は製材量を絞っていたが、正常時に近い水準まで戻す。在庫は減りすぎたため積み増しを図る。

・スギ3m材の不足感が相変わらず続いている。

・1月、2月は天候不良で、ヒノキの原木がスギの原木より割安のため、スギ原木の出材を優先しヒノキの入荷はやや減。ヒノキ製品の需要減、仕入れも減。

・スギ素材単価が高く、製品単価が追いついておらず、消費は横ばい。

(原木価格)

- ・トドマツは国有林公売価格が高値安定。
- ・スギ丸太は引合いが衰えず、強い状態が続く。
- ・ヒノキ価格の大きな変動ない。
- ・供給増で上げ一服。
- ・出材量少ないが、買い気にバラツキあり、底値の固い環境は変わらず。
- ・1月～2月はこれからの天候にもよるが、ヒノキは上がると予想、3月は下がると予想。
- ・雪が降っても相場は変化なし。
- ・ヒノキやや上昇、製材外（輸出、合板、ラミナー、バイオマス）の買いが強いため。
- ・スギ高値横ばい。

27年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
生産動向	スギ	△ 18.2	△ 4.5	4.5
	ヒノキ	△ 11.1	△ 11.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
出荷動向	スギ	△ 9.1	△ 18.2	△ 9.1
	ヒノキ	△ 5.6	△ 11.1	△ 5.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 4.5	9.1	9.1
	ヒノキ	△ 5.6	5.6	△ 5.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ製材品の生産は1月、2月は減少、3月は微増ないし横ばい。カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは1月の減少が2月は横ばい、3月は増加に。

・スギ及びヒノキ製材品の出荷は3ヵ月連続して減少、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは1月の減少が2月は横ばい、3月は増加に。

・スギ製材品の在庫は1月減少、2月及び3月は増加、ヒノキは1月は減少、2月は増加、3月は再び減少、カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 4.5	0.0	△ 4.5
	柱角 KD12×3	△ 13.6	△ 9.1	△ 4.5
	通し柱 12×6	5.6	5.6	5.6
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	△ 5.6	△ 5.6	△ 5.6
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	△ 5.6	△ 5.6	△ 5.6
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 11.1	△ 16.7	△ 11.1
	柱角 KD12×3	△ 22.2	△ 16.7	△ 11.1
	土台角 10.5×4	△ 5.6	△ 11.1	△ 5.6
	土台角 12×4	△ 11.1	△ 16.7	△ 11.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角、母屋角、ヌキ及びラミナは3ヵ月連続してやや弱保合、通し柱は3ヵ月連続してやや強保合、桁角、タルキ、間柱及び平割は3ヵ月連続して横ばいで推移。

・ヒノキ製材品は、柱角、土台角及びラミナは3ヵ月連続してやや弱保合で推移、通し柱は3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばいで推移。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツの生産は、受注堅調。生産即出荷続く。
- ・スギ・ヒノキは原木入荷に応じた生産、製品の問い合わせ少なく出荷も減少、ヒノキ製品の停滞が目立つ。
- ・荷動き良くない、2,3ヵ月悪い予想。
- ・生産の稼働日数は変えず、スギは昨年末にまとまった出荷があり年初の手当てが少ない、ヒノキは新規商売があり出荷増。在庫総量は変えず。
- ・春先に向けて若干荷動きが改善する見込み。生産調整でやや在庫減少。
- ・スギ生産は余り変化せず、プレカットもそれなりに動いているようだが、やはり先々の見通しは余り良くないようだ。資金繰りの影響か、メーカーの投売り情報を聞くが、真相は？こうした情報が広まること自体が悪影響である。
- ・製品が売れないため、ヒノキ生産、出荷やや減。
- ・スギ在庫増で生産調整、出荷が弱い。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギは価格安定。
- ・スギは売り急ぎが起きると思われる。原木価格は強いが、建築向け製品は振るわず。ヒノキは需要少ない、単価的に安いと思われるまでこの状態が続くそう。ヒノキ四寸角がなかなか売れない。
- ・スギ10.5角だけ売れ行き良、スギ間柱10.5幅を中心に安定。
- ・輸入材の不足感はあるがスギへの価格的な影響は少ない、ヒノキ原木不足から価格は上昇傾向。
- ・ヒノキは4m×10.5cm角土台は上がると予想、その他は横ばい。
- ・スギ柱角は年末に値を下げたまま横ばい、ヒノキ12.0角3mは今月も弱い。
- ・ヒノキ売れないためやや下落。

27年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	50.0	100.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは1月及び2月は横ばい、3月は増加に。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は1月の減少が2月及び3月は増加に。NZラジアータ丸太は1月の横ばいが2月及び3月は増加に。

・米マツ丸太の在庫は1月及び2月は増加、3月は横ばい。NZラジアータ丸太は1月の横ばいが2月、3月は減少に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/1月	2月	3月
米マツ丸太	50.0	0.0	△ 50.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は1月のやや強含みが、2月は保合、3月は弱含み。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ニュージーランド製品値上げするためスギ丸太仕入量を増やす予定。

(原木価格動向)

- ・1月末ニュージーランド丸太は史上最高値となる。

27年1月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
生産動向	米マツ製材品	△ 100.0	50.0	100.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	0.0	100.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は1月の減少が、2月、3月は増加に。NZラジアータ製材品は1月の横ばいが2月、3月は増加に。

・米マツ製材品の出荷は1月の減少が、2月は横ばい、3月は増加に。NZラジアータ製材品は1月の横ばいが2月、3月は増加に。

・米マツ製材品の在庫は1月、2月の増加が3月は横ばいに。NZラジアータ製材品は1月の横ばいが2月、3月は減少に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/1月	2月	3月
米マツ平角		0.0	0.0	50.0
米マツ正角		50.0	50.0	0.0
米マツ小割		50.0	50.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	100.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	100.0
NZ土木用材		0.0	50.0	100.0
その他		—	—	—

・米マツ平角の出荷価格は1月、2月の横ばいから3月はやや強含みに、正角及び小割は1月及び2月はやや強含み、3月は横ばいに。

・NZ梱包材及び土木用材の出荷価格は1月の横ばいから2月、3月はやや強含みないし強含みに。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・ニュージーランド製材品は1月より値上げ依頼を行うため、2月からの値上げ前に駆け込み注文が増える見込み。

(製材品出荷価格動向)

・ニュージーランド製材品は、2月～3月で5,000円/m³の製材品値上げを実行予定。